



【理念】

「愛し愛される病院」

【基本指針】

- 1、私たちは、患者様、ご家族に「おもいやり」をもって接します。
- 1、私たちは、地域に信頼され貢献できる医療を提供いたします。
- 1、私たちは、患者様の在宅復帰を支援いたします。
- 1、私たちは、診療記録を正確に記載いたします。
- 1、私たちは、自己研鑽しよりよい病院を目指します。

【患者様の権利】

- 1、患者様は医療に関する説明を十分受けた上で、治療を受ける権利又は拒否する権利が有ります
- 2、患者様は医師、医療従事者が患者様の知り得た個人情報を守られる権利が有ります
- 3、患者様は病院、医師を自由に選ぶ権利が有ります
- 4、患者様は安全で適切な医療を平等に受ける権利が有ります
- 5、患者様は診療録の開示を求める権利が有ります

新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。

杉並リハビリテーション病院が101全ベッド回復期リハビリテーション病棟になり、八度目のお正月を迎えました。

回復期リハビリテーション病棟は、脳梗塞・脳出血・くも膜下出血などの脳血管疾患や大腿骨頸部骨折などの患者さまに対して、日常生活動作能力の向上などを目的にリハビリテーションを集中して行い、自宅復帰・社会復帰を支援するための病棟です。

より充実した、皆様に満足いただける病院を目指して、第三者評価である日本病院機能評価機構による機能別リハビリテーション機能評価のみならず付加機能としての回復期リハビリテーション機能の認定評価を受けるだけでなく、その方その方一人一人が望まれているリハビリテーションを提供できることを念頭においてまいりました。

入院された患者さまに“ありがとう”と自宅での安心した生活にもどられますよう、職員一同結束し取り組みます。

「愛し愛される病院」の理念の下、職員一同、熱い思いで患者さまのリハビリテーションに取り組みます。患者さま、ご家族の皆様ならびに地域から信頼され、地域に貢献する魅力ある病院として更なる発展に努めてまいります。



入院窓口から 早期リハビリによる生活自立度の改善

早期にリハビリを開始すると生活自立度の改善が高いと一般的に言われていますが本当でしょうか？生活自立度の改善を測る指標の一つに FIM (Functional Independence Measure)があります。運動面と認知面の18項目を各項目1～7点で評価します。回復期リハビリテーション病棟の全国平均では、入院から退院までに16.8点の改善が報告されています。当院は全国平均を上回り、20.6点です(表1)。病気発症から回復期リハビリテーション病棟へ入院するまでの期間別に見ると、60日以内よりも30日以内、30日以内よりも14日以内のほうが、FIM改善点が高くなる傾向にあります(図1)。

病気発症後、タイミングを逃さずすぐにリハビリ転院できるような早めの(治療終了見込みでの)転院相談が重要です。当院では転院相談に対しスピーディーな対応を心がけています。ベッド状況により待機期間が生じる場合もありますので、やはり早めの転院相談をお勧めします。



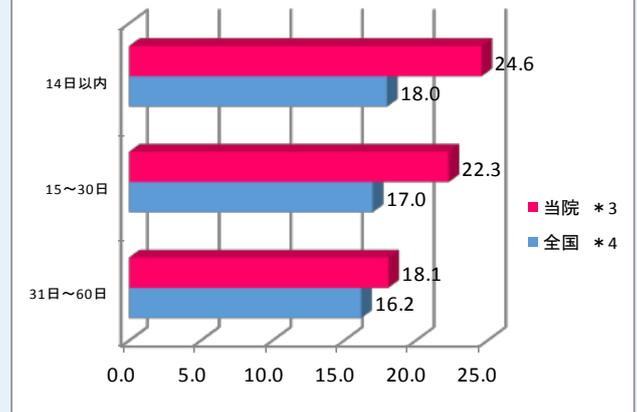
地域連携室 主任 廣川 里美 (ひろかわ さとみ)

表1 FIM改善点

	患者数	入院時平均①	退院時平均②	改善点=②-①
当院 *1	625名	61.8	82.4	20.6
全国 *2	27102名	73.2	90.0	16.8

- *1 平成26年4月～平成27年10月までに退院した患者の平均
- *2 平成26年8月・9月に全国の回復期リハビリ病棟を退院した患者 (一般社団法人 回復期リハビリテーション病棟協会調べ)

図1 入院までの期間別FIM改善点



- *3 平成26年4月～平成27年10月までに退院した患者625名
- *4 平成26年8月・9月に全国の回復期リハビリ病棟を退院した24,898名 (一般社団法人 回復期リハビリテーション病棟協会調べ)



～特集～ 脳血管疾患患者さまの

早期リハビリテーションを通して

ここ数年、急性期病院での入院日数が短縮され、手術日から1ヶ月以内に回復期病院へ転院される方が多くなっております。

当院においても同様の傾向であり、それに伴い提供するリハビリ内容も少しずつ変化してきております。今回はその一部を紹介致します。

手術から日数経過が短い患者さまは、血圧や脈拍・呼吸・栄養状態が安定していません。しかし、そのような中でもベッドサイドでのリハビリではなく、早期から可能な範囲で離床を促していく事が、とても重要です。その為に大きな役割を果たすのが『車いす』です。

『車いす』は、移動手段としてだけでなく、全身の耐久性向上、身体機能を回復させるため、座位時間確保に重要なツールだと考えられます。身体に合ったものを使用し座位耐久性を向上させる事は、摂食や嚥下にも影響し、食事動作にも関わってきます。当院ではPT・OT・STが、その様な視点を持ち、早期から適正な選定を行ない患者さまに提供できるよう取り組んでいます。

選定には、当院に関わりのある専門業者にも協力して頂く事で、身長や体重だけでなく、背中や臀部の皮膚状態・円背等の骨の変形にも考慮した選定が可能となってきています。

また、その選定スキル獲得のためリハビリ科では、シーティング勉強会や新しい車いすが出た際には専門業者の方にデモンストレーションして頂いています。このように、車いすだけでなく常に新しい情報・知識を取り入れ臨床に活かしていけるよう心がけています。

リハビリテーション科作業療法士 宮坂 祐規 (みやざか ゆうき)

回復期リハビリテーション病棟における看護



脳血管疾患の患者さまは、急性期での治療が終了しても意識がぼんやりしている方、経鼻カテーテルや尿管カテーテルが挿入されたままの方、失語・歩行障害、など様々な症状と共に肺炎や尿路感染症の合併、廃用が進行している…等、様々な状態で転院していらっしゃいます。

回復期リハビリテーション病棟での看護援助は“現在を支え入院時から生活できること”を視点としています。重症度の高い患者さまは、まず車いすに座位をとることから始めます。『食事』を摂取するには20～30分は、座位姿勢を持続できなければいけません。床に足底を付け前傾姿勢をとり食べ物に集中し、はしやスプーンを使用して口まで運ぶ動作を獲得します。経口摂取が始まったら肺炎の合併症を観察し、最終的には普通の食事形態を自分で食べることを目指します。『排泄』は、昼間はトレーニングパンツをはき、失禁があってもトイレへ誘導します。そこでも便座に座るためには一定時間座位を取れなければ排泄はできません。日々同じ動作を繰り返し、最終的にはオムツを使用せずトイレで排泄できることを目標にします。

脳血管疾患に限らず回復期リハビリテーション看護は、生活に視点を置き在宅に向けたアセスメントを常に考えながら在宅復帰を目指しています。

そのだ のりみ
看護部長 園田 祝美

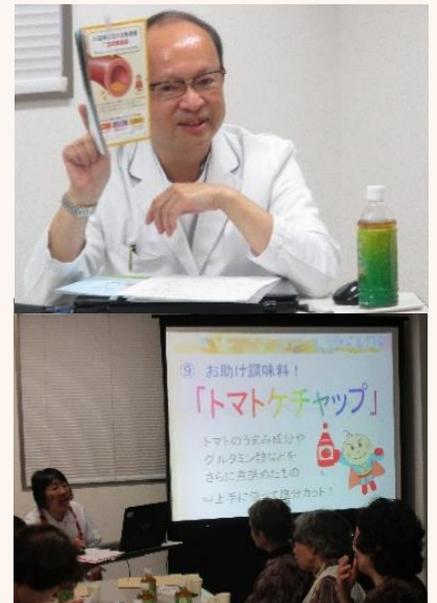
退院に向けて♪ 患者さまの在宅復帰に向け 私たちが取り組んでいること…

その① 毎年恒例「杉並リハの日」を 11月21日に開催しました

「出来ることから始めよう健康生活」というテーマで当院職員の講演をお届けしました。

1 題目は高野医師より、生活習慣病と死亡原因3大疾病についての解説、血圧を毎日測ることが予防の第一歩であることが話されました。2 題目は五百木管理栄養士から、健康寿命を延ばすための食生活について、調理の工夫や塩分控えめレシピをご紹介。また、参加者全員が身長・体重を計測し、ご自身のBMI（肥満度）算出を体験して頂きました。質問も多く参加者の健康に対する意識の高さがうかがえ、充実した1時間半となりました。

杉並リハの日実行委員会



その② 「健康教室」「家族介護教室」で地域連携!!

当院リハビリ科では、地域包括支援センターと協力しさまざまな取り組みを実施しております。

- 健康教室：10/13 きすなサロン
10/16 ミニ測定会・体操（ケア24上荻）
10/29 ミニ測定会（ゆうゆう善福寺）
11/9 福祉用具使用説明会
（ケア24善福寺）
11/10 ミニ測定会・体操（ゆうゆう桃井）

- 今後の予定 2月中
バランスについて
（ケア24上荻）
2/29
歩行について
（ゆうゆう館）



◆ 平成 27 年 9 月～12 月入院患者数と紹介元医療機関

9 月から 12 月の 4 か月間における新入院患者は 149 名、紹介元医療機関は以下の通りです。

(順不同、敬称略)

太田熱海病院、荻窪病院、樺島病院、河北総合病院、関東脳神経外科病院、吉祥寺南病院、杏林大学医学部付属病院、久我山病院、慶應義塾大学病院、公立昭和病院、国立国際医療研究センター病院、災害医療センター、佐々総合病院、順天堂大学医学部附属練馬病院、聖路加国際病院、高島平中央総合病院、立川相互病院、田中脳神経外科病院、多摩北部医療センター、東京医科大学病院、東京衛生病院、東京警察病院、東京女子医科大学病院、東京高輪病院、東京都済生会中央病院、東京西徳洲会病院、東京山手メディカルセンター、都立多摩総合医療センター、新渡戸記念中野総合病院、西東京中央総合病院、練馬総合病院、練馬光が丘病院、春山記念病院、碑文谷病院、富士宮市立病院、保谷厚生病院、星ヶ丘医療センター、松江病院、三宿病院、三鷹中央病院、三鷹ロイヤルの丘、武蔵野赤十字病院、山中病院 ほか 以上、45 か所 ご紹介ありがとうございました。

～当院の現況～

	平成27年10月	平成27年11月	平成27年12月
ベッド稼働率	99.5%	98.5%	95.2%
入院延べ患者数	3,148 人	3,025 人	3,027 人

在宅復帰率(直近3ヶ月)…89.4%

重症患者割合(直近6ヶ月)…30.9%

重症患者回復病棟改善割合(直近6ヶ月)…55.7%

※日常生活機能評価で10点以上の新規患者割合
※重症患者のうち4点以上改善している者の割合

交通のご案内



■JR中央線・総武線 西荻窪駅下車 北口 徒歩2分

編集後記

広報(広告含め)についていろいろと考えられます。誰に(ターゲット)、何を(自院の強み)伝えるかを明確にするには、しっかりとした外部分析・内部分析が必要となります。広報誌発行をよい機会に、今年はその作業に力を注ぎたいと思います。

(編集委員)

医療法人社団 瑞心会
杉並リハビリテーション病院

内科・リハビリテーション科

- 発行 行：杉並リハビリテーション病院
- 発行責任者：門 脇 親 房
- 編集 集：総 務 課

<http://suginami-reha-tokyo.jp/>

〒167-0042

東京都杉並区西荻北 2-5-5

TEL:03-3396-3181 (代)

